

第2回(仮称) 苫小牧市民ホール建設検討委員会及び ワーキンググループ合同会議議事要旨

日時 平成29年7月24日(月) 13:30~16:00

場所 市役所9階会議室

出席 委員14名

<次第1>第1回合同会議のまとめ

- ・ 第1回合同会議では、現東小学校を敷地と仮定して、配置計画を検討した。具体的には、敷地や建物へのアクセス、アプローチの考え方、敷地全体の土地利用の考え方を整理した。(資料2-1)
- ・ 三つのグループに分かれて議論をしたが、重視するポイントにはいくつか共通点が見られた。

アクセス・アプローチの考え方

- ① 車の動線と人の動線を分ける。
- ② 一般車両と搬出入の車両の動線を分ける。
- ③ 駐車場に複数箇所の出入り口を設けたり、駐車場内を一方通行にしたりすることで混雑を緩和し、事故を防止する。
- ④ 既存の樹木や遊歩道を生かして、散歩ついでに訪れたいような動線をつくる。

土地利用

- ① 駐車場を敷地西側に配置する。
 - 北西側のマンションに対して大きな建物を建てないように配慮する。
 - 現市民会館の跡地と一体的に駐車場を整備できる可能性がある。
 - ② 現市民会館前にある遊歩道と一体的にオープンスペースを整備する。
 - ③ 敷地西側の住宅街に配慮して高さの出る建物部分は東側に配置する。
- ・ 第1回合同会議のワークショップで議論された内容に加えて、建築計画の専門的な見地より事務局での議論をし、いくつかの配置案を検討した。
 - ・ 資料2-1, 2-2で、各配置案の特徴を比較整理している。
 - ・ 駐車場の表記は、(中)が現市民会館の駐車場の台数程度、(大)がそれよりも多い台数、(小)が少ない台数という目安で配置している。

「北寄せ型①~③」

- ・ オープンスペースを南側に確保できる案である。
- ・ 北寄せ型①と②では、ホールの位置が異なるため、大きな建物の高さがどちらにくる

か、バックヤードと一般車両の動線が分けられるかという点が異なる。

- ・ 北寄せ型③は、北側からも出入りできるよう建物を分棟にした案である。

「東寄せ型」「西寄せ型」

- ・ 建物を片側に集約し、駐車場を広く確保できる案である。
- ・ いずれも、南北の歩行者動線の確保と、北側の狭い道路に対して建物を壁面後退（セットバック）させることで圧迫感を軽減することができる。
- ・ 「西寄せ型」の場合、高さのある建物が西側住宅地へ圧迫感を与える可能性がある。
- ・ 「東寄せ型」「西寄せ型」のいずれも、オープンスペースの確保が難しく、事業計画で議論してきたオープンスペースと一体的に整備するアイデアを生かすことができないという課題がある。

「東寄せL字型」

- ・ 「北寄せ型」「東寄せ型」「西寄せ型」の課題点を考慮し、建物をL字型に配置することで、駐車場台数の確保とオープンスペースの確保を実現する案である。
- ・ 東側に高さのある建物を配置し、西側住宅地や北側への圧迫感を軽減している。
- ・ 既存の遊歩道から一体的なオープンスペースの確保ができる。
- ・ 駐車場を西側に集約し、駐車台数を確保する。
- ・ 搬出入車両と一般車両のアクセスを分離する。

【質問】

- ・ 第1回ワークショップでは現市民会館の敷地も利用する案が出ていたが、それは考慮するのか。
 - ・ 旭町2条通線の扱い（廃道や一方通行にするなど）についても議論になっていたが、それによりアクセスなどは変わってくるのではないか。
- 現在、市の方針として示しているのは現東小学校の敷地であるため、まずはこの敷地を前提として配置案を検討している。合同会議で意見が出された現市民会館の跡地利用や道路の扱いについては、今後検討していきたい。

<次第2>類似施設の紹介

- ・ 今回のワークショップでは、ホールや会議室、展示室や事務室など、複合施設が持つ四つの機能(活動・鑑賞・展示・窓口)の割合を考慮しながら、それぞれの諸室のおおまかな立体的な配置の検討を行う。その際の参考として、近年オープンした東広島市と豊中市の類似施設を苦小牧の施設が持つ四つの機能に当てはめてみた。それらの諸室の配置や特徴について紹介すると共に、利用者が自由に行き来し休憩できる共用スペースの配置の特徴についても紹介したい。

- ・ 二つの施設の延床面積はほぼ同じであるが、四つの機能の配置や割合はそれぞれの施設の狙いや目的によって異なっている。
- ・ ワークショップでは、この二つの施設を参考にしながら、苫小牧ではどのような機能の面積の配分が良いか、どのような諸室間の関係性を重視し、立体的に配置していくか考えていきたい。

東広島芸術文化ホール くらら

- ・ 広島県東広島市にある「東広島芸術文化ホール くらら」は、平成 28 年 4 月に開館した施設で、延床面積が 13,338 m²である。施設整備の背景には、芸術文化拠点の整備に加え、既存の中央生涯学習センターの老朽化に対応した複合施設となっている。
- ・ 地下 1 階、地上 6 階建ての施設であり、その特徴として活動機能の諸室が多く取られていることが挙げられる。活動機能に相当する諸室は、会議室や研修室に加え、調理実習室や工作室など様々な利用に対応した諸室が用意されている。それらの背景には、上述のように活動機能の諸室を多く有する生涯学習センターが文化芸術拠点と複合しているためである。

豊中市立文化芸術センター

- ・ 大阪府豊中市にある「豊中市立文化芸術センター」は、平成 29 年 1 月に正式に開館した施設で、延床面積が 13,425 m²と、東広島の施設とほぼ同規模である。施設整備の背景は、既存の市民会館の老朽化による建替えであり、その際に隣接していた既存のホールを中ホールとみなし、二つの施設ではあるものの一体的に運営を行なっているのが特徴である。
- ・ 地下 1 階、地上 3 階建ての施設であり、その特徴として、鑑賞機能の諸室である楽屋の数を要求よりも少なく設け、会議室と兼用していることが挙げられる。鑑賞機能と活動機能のスペースを兼用することで、豊中市の施設では結果的に共用スペースに多くの面積を割くことができている。